

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士後期課程

【研究科 目的】		
農学研究科	農学研究科	本大学院農学研究科博士後期課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。
	応用生物科学研究科	本大学院応用生物科学研究科博士後期課程は、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、応用生物科学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させることを教育研究上の目的とする。
	生命科学研究所	本大学院生命科学研究所博士後期課程は、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、生命科学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者など高度専門職者として独立できる能力を修得させることを教育研究上の目的とする。
	地域環境科学研究科	本大学院地域環境科学研究科博士後期課程は、対象とする研究領域における高度専門研究者に必要なとされる、身近な地域から地球規模に至るまでの地域環境に関する諸問題に関する高度な理解力と課題解決のための高度専門知識、ならびに調和ある地域環境を構築するための生物資源の保全・利用・管理に関する高度な知識と高度専門技術を基盤にした課題解決のための研究手法を習得させる。さらに、取り扱う諸問題の社会的意義を自覚し、責任感を持って研究にあたることが出来る高度な倫理観と使命感を習得させることを目的とする。
	国際食料農業科学研究科	本大学院国際食料農業科学研究科博士後期課程は、食料・農業・環境領域での各国・地域の特性を活かした発展に向けた技術的・社会的方策の構築に関連する国際的かつ高度な研究成果を上げ、食料農業科学分野の先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を習得させること教育研究上の目的とする。
農学研究科	生物産業学研究科	本大学院生物産業学研究科博士後期課程は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。
	【専攻 目的】	
	農学専攻	農学専攻博士後期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想・問題解決能力と強い使命感を持ち、現場で発生する種々の問題に柔軟に対応して、国際的にも活躍できる独立した研究者、教育者、専門技術者などの人材を養成することを目的とする。
	動物科学専攻	動物科学専攻博士後期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。動物・畜産関連の幅広い分野の諸問題に対し、自ら考え、検証し、対応することができ、国際的にも活躍の場を広げることができる人材を養成することを目的とする。
	生物資源開発学専攻	生物資源開発学専攻後期課程では、植物における生理生態学的知見、昆虫における分類学・形態学といった基礎昆虫学の知見、野生動物における生態学や行動学、進化学の知見を修得する。また、薬用資源の栽培・安定供給に関する栽培学、植物生産学の知見、および遠征的多様性の潜在的価値の評価と活用などの知見を修得する。これら生物資源の先進的見識を有しつつ、論理的思考に基づき文章作成ならびにプレゼンテーションを行うことができる自立した研究者、または教育者となる人材の育成を教育研究上の目的とする。
農学研究科	デザイン農学専攻	食料問題、環境・資源・エネルギー問題等の人類の課題間の複雑かつ複層的な関係性を踏まえ、イノベーション農学、サステイナビリティ農学の二つの視点から解決を図りつつ、持続可能な社会を構築するための設計科学としての農学に基づく「デザイン農学」の視点に立った計画研究を展開する。イノベーション農学は、生物やその生産物が潜在的に有する高度で多様な機能性を活かした食品や生活資材、およびその加工利用技術を開発することを目指すものである。一方、サステイナビリティ農学は、開発された技術や農業の多面的機能を活用しながら、それを統合・システム化して社会に実装することで豊かで持続可能な社会の構築を目指すものである。これら教育研究の目的と関連する手法の下、高度な専門知識と技術に基づいた人類的課題の分析、生物やその生産物の持つ多面的な機能性を利用した技術・新規機能性製品の開発による解決策の開発、さらにそれらを有機的に組み合わせた生活あるいは社会のデザイン、その社会実装のための国内外の産・学・官・民といった様々なステークホルダーとの協働による持続可能な社会の構築に貢献できる自立した研究者または教育者となる人材を養成することを目的とする。
	環境共生学専攻	本大学院環境共生学専攻博士後期課程は、人類をはじめとする全ての生物が、地球環境の中で均衡のとれた持続可能な共生関係を維持するための研究を推進し、広範な農学を基盤とした自然科学、社会科学及び人文科学を融合した総合科学分野による研究を行い、環境共生に関する総合的・複合的な視野をもち高度な研究能力を有した人材の養成を目的とする。
	【専攻 目的】	
	農芸化学専攻	農芸化学専攻博士後期課程は、必修の基礎科目として配当する「英語論文作成」において、「土壌肥科学・植物生産化学・応用微生物学・食料資源理化学・生物有機化学・栄養化学」などの各専門領域における英語論文の読解・作成能力を向上させ、さらに各専門領域における高度な知識と研究能力を修得する。これらを通じ、人類の生活に関わる研究課題を論理的に解決できるのみならず、リーダーシップを発揮し世界で活躍する能力を修得させることを教育上の目的とする。
	醸造学専攻	醸造学専攻博士後期課程では、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、応用生物科学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させることを教育上の目的とする。
農学研究科	食品安全健康学専攻	食品栄養学専攻博士後期課程においては、「生体分析科学後期特論」、「リスク評価学後期特論」、「食品開発学後期特論」、「生理活性物質学後期特論」、「生理機能学後期特論」、「生体環境解析学後期特論」、「ケミカルトキシコロジー特論」といった各専門科目などを履修することにより、各専門領域の造詣を深めさせる。それにより、グローバルで、より高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決に向けてのリーダーシップを備えさせることを教育上の目的とする。
	食品栄養学専攻	食品栄養学専攻博士後期課程は、知的財産、研究倫理、研究計画策定に関する必修科目と、それ以外の特論科目を履修することで、研究・産業発展などで指導的立場を担える高度な専門家となるために必要と考えられる領域の造詣を深める。それにより、広範かつ豊富な専門的知識・技術と研究能力を習得させ、次世代を担うリーダーとしての素養を涵養することを教育上の目的とする。
	バイオサイエンス専攻	バイオサイエンス専攻博士後期課程では、指導教員のもとで博士論文の作成を行う「特別研究指導」、「英語論文作成法」を通じて、研究成果をとりまとめ、学会発表、学術論文発表するための、研究者としての能力を習得する。また国内外からの講師によるセミナーを中心とする「細胞分子機能科学後期特論」、「植物」生命科学後期特論」、「動物生命科学後期特論」に参加し、最先端の知識、技術を習得し、自らの研究に生かす。以上のカリキュラムを通じて、生命科学の最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通じて、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成する。
	分子生命化学専攻	分子生命化学専攻博士後期課程は、農学分野に関する自然科学を化学的視点を取り入れ総合的に理解し、様々な自然・生命現象に対して、分子論的な解釈と化学的なアプローチを可能とするため、分子生命化学の最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通じて、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成する。それにより、優れた人間性を有し、地球規模での持続的な成長を実現するための問題解決に対応することが可能な能力を習得し、国内外の大学・研究機関・企業等において研究・開発のリーダーとして貢献する人材の養成を目的とする。
	分子微生物学専攻	分子微生物学専攻博士後期課程は、生命科学分野の広い知識に加え、目に見えないミクロの世界で起こる有益で、かつ危険な生物作用の理解を基礎として、高度な微生物の取扱い、先端機器を用いた微生物機能の研究、さらに微生物の特性を考慮した微生物利用技術を開発する能力を養成する。それにより、優れた人間性を有し、国内外の大学・研究機関・企業等において研究・開発のリーダーとして貢献する人材の養成を目的とする。
農学研究科	林学専攻	林学専攻博士後期課程は、地域から地球規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全の機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度な利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力及び問題解決に向けてのリーダーシップを備えた人材の養成を目的とする。
	農業工学専攻	農業工学専攻博士後期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木、農業機械及び環境情報分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる高度な能力を持った人材の養成を目的とする。
	造園学専攻	造園学専攻博士後期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や造園施工・材料技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献できる高度な研究者、教育者、専門的技術者などの人材の養成を目的とする。
	地域創成科学専攻	地域創成科学専攻博士後期課程では、高度専門研究者として必要な素養を身につけるために、英語論文作成能力を修得し、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学及び地域デザイン学に関するいずれかの専門的応用知識を修得する。これらを通じ、地域創成に関する調査・評価手法などの高度な知識と技術を修得するとともに、論理的・多面的に物事を考えることができ、地域づくりを担うリーダーシップを備えた高度専門研究の人材を育成することを目的とする。
	【専攻 目的】	
農学研究科	国際農業開発学専攻	国際農業開発学専攻博士後期課程では、「熱帯作物学後期特論」、「熱帯園芸学後期特論」、「熱帯作物保護学後期特論」、「農業環境科学後期特論」、「農業開発経済学後期特論」、「農村開発協力後期特論」といった専門科目を履修し、高度な専門知識を踏まえて課題を設定し研究を企画遂行する能力、さらには、国内外の農業開発並びに国際協力分野でリーダーシップを持って活躍できる能力を修得させることを教育上の目的とする。
	農業経済学専攻	農業経済学専攻博士後期課程では、「農業経済学後期特論」、「農政学後期特論」、「食料経済学後期特論」といった専門科目を履修し、各専門領域における広範な専門的知識を修得することにより、変化する社会・経済情勢に的確に対応できることを目指す。これらにより、研究能力及びリーダーシップ能力を修得させることを教育上の目的とする。
	国際アグリビジネス学専攻	国際アグリビジネス学専攻博士後期課程では、世界のアグリビジネスの持続的発展に対する課題に積極的に取り組み、研究できる人材を養成するため、農業経営学にかかわる高度な専門知識、優れた研究遂行能力、正しい研究倫理の理解のもと、自立した研究者として国際舞台で活躍できる言語能力を有する人材の育成を教育研究の目的とする。
	国際食農科学専攻	国際食農科学専攻博士後期課程は、「実学主義」の理念を基に国内外の食と農が抱える課題の解決に向けて高度な研究成果を上げ、植物生産学、食環境科学、食農政策、食農教育といった国際食農科学分野の先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させること教育研究上の目的とする。
	生物産業学専攻	生物産業学専攻博士後期課程は、博士後期課程として、前期課程に配された「北方圏農学専攻」「海洋水産学専攻」「食香粧化学専攻」「自然資源経営学専攻」の4専攻を統合した文理融合型の専門教育体系を敷いている。本専攻は、生態系の保全、農水産、加工開発、経営流通のいずれかの側面を深く掘り下げつつ、包括的な観点から生物産業の実践的な学術理論・技能を身に付けた指導的人材の養成を目的とする。